

人類によって生み出される情報は年々増加しており、ストレージ装置の大容量化がますます必要とされています。今後、主流になると見られるクラウドコンピューティングの普及が進むにつれて、携帯端末や各種のパソコン（PC）に搭載されるストレージ装置と、サーバや大規模データセンターなどに使用されるストレージ装置の役割が大きく変化しようとしています。このような流れのなか、東芝は、2009年10月に富士通（株）のHDD（磁気ディスク装置）事業を統合し、新しい社内カンパニーとしてストレージプロダクツ社が2010年4月にスタートしました。

従来扱ってきたモバイルHDDにエンタープライズ向けHDDが加わり、製品範囲が大きく広がりました。ODD（光ディスクドライブ）では、現行のDVDドライブのほかに、ブルーレイディスク対応ドライブ<sup>(注)</sup>のラインアップを加えたほか、従来のIT（情報技術）用途のドライブだけでなくAVモジュールの開発と製品化も進めています。更に、エンタープライズ向けHDDの技術とNAND技術を融合したエンタープライズ向けSSD（ソリッドステートドライブ）<sup>(注)</sup>を新製品として加えました。時代のニーズに応えるストレージ装置のラインアップを充実させ、総合的に提供していきます。

こうした商品を支える新技術の開発は、様々な部門やサプライヤーとの連携で進めており、次世代に向けて、HDD向けの磁気ヘッド及びメディアでは、エネルギーアシスト記録やビットパターンメディア技術などの開発を行っています。

(注) ハイライト編のp.6に関連記事を掲載。

執行役上席常務 ストレージプロダクツ社 社長 山森 一毅

### ● エンタープライズ向け 600 Gバイト2.5型HDD



エンタープライズ向け 600 Gバイト2.5型HDD MBF2600RC  
MBF2600RC 600 Gbyte 2.5-inch hard disk drive (HDD) for enterprise use

回転数10,000 rpmで、業界最大クラスとなる記憶容量600 Gバイトのエンタープライズ向け2.5型HDD MBF2600RCをはじめ、450 Gバイト、300 Gバイトの3機種を製品化した。

この製品は、エンタープライズ向けHDDとして低消費電力かつ小型でありながら、既存の3.5型HDDの最大記憶容量と並ぶ600 Gバイトの大容量化を実現した。

内部転送レートを191.5 Mビット/s から216 Mビット/sへと約13%改善したほか、高速シークなど、パフォーマンスの向上も実現し、多様なアプリケーションに対応できる。

### ● PC向け 640 Gバイト2.5型HDD



PC向け 640 Gバイト2.5型HDD MK6461GSY  
MK6461GSY 2.5-inch HDD with 640 Gbyte capacity and 7,200 rpm rotation speed

回転数7,200 rpmの2.5型HDDとして、業界最大クラスの記憶容量640 GバイトのMK6461GSYをはじめ、合計9機種を製品化した。

暗号化やフリーフォールセンサなどの機能をオプションで選択できるほか、産業系システムやブレードサーバのように連続稼働が求められる機器に対応したタイプなど、様々な用途に対応できるようにラインアップを拡充した。

MK6461GSYは、従来の高速回転モデル（MK5056GSY）と比べ内部転送レートを約12.5%向上させた大容量データを更に高速に処理できるようにしたため、高性能ノートPCのほか、これまで主に3.5型HDDが採用されてきたデスクトップPCなどにも適用できる。